

週 報

こひつじ

第41巻 3号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

すべてのことを見分けて

すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。

(第一テサロニケ 五の二一)

その一 見分ける力

「ほんとうに良いものを堅く守りなさい」

これが今年のローズンゲンの言葉だが、ほんとうに良いものを守るには、それが何であるかを見分ける必要がある。そのためには見分ける作業が必要だ。

だから、パウロは言う。「すべてのことを見分けて」と。年末に部屋を掃除された方は多いと思う。

「よし、かたづけよう」と決意する。

雑然とした部屋を見て、

「よし、かたづけよう」と決意する。

その時、私たちに必要なのは、何は捨て、何はとっておくかの判断だ。それが的確に行なわれて、部屋は徐々に秩序を取り戻すことになるだろう。

そうでないと、つまらないものを後生大事に取っておくかも知れないのである。

心の整理についても、同じことが言える。

私たちは、あまりに多くのことで忙しくしていないか。あれもこれもと手を出しすぎていないか。イエスは言われなかったか。

イエスは言われなかったか。

「どうしても必要なことはわすかです。いや、一つだけです」

その一つを見分けるために必要なのが、見分ける力なのだと思う。

そこで思い出すのは、元上智大学の教授デーケンさんが日本で最初に紹介した『死への準備教育』である。

人はだれも死を前にしたとき、人生の整理を余儀なくされるだろう。そこでデーケンさんは、次の二つの演習を学生たちに行なわせた。

第一は、「もしあと半年の命しかなかったら、残された時間をどのように過ごすか」という問いに答えること。

第二は、身近な人に「別れの手紙」を書くこと。

以上の演習は、学生たちに衝撃を与えた。

第一の演習で自分の人生があとわずかと想定したとき、自分がこれまで大事にしていたものの変更が迫られたからだ。

さらに第二の演習で、身近な人に別れの手紙を書いたとき、学生たちは、それらの人たちが、いかに

にかけがえのない存在であるかをあらためて発見したという。

私たちにとっても、この演習は、何がほんとうに大切かを知るために役立つのではないだろうか。

『もしも世界が明日終わるとしたら』という小さな本を前に読んだことがあるが、それも、ほんとうに大切なものが何かを考えるのに役立つてくれた。著者はこう書いている。

明日という日が

もうやって来ないと

もしもわかっていたら

これまで君を傷つけたことを

どうか許してほしいと

心から思うだろう

君と一緒に過ごせる日が

もう残り少ないと

わかっていたら

君との時間を全部

大事に、大事に過ごすよ

幼い子どもの命が、

時には断たれてしまうことも

あるとわかっていたら

その小さな体を抱きしめて
こんなふうに
寝かしつける夜が
もっと長くいつまでも
続くようにとお願ひしたのに

著者が見いだした「ほんとうに
大切な」とは、許されることで
あり、愛する者とともに過ごした
時間であり、幼子を寝かしつける
夜であつたものである。そして
それらはみな、どこか遠くにで
はなく、身近なところにあつたの
である。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。
○説教は岩崎宏さん。

先週の礼拝

司会は宮元隆博さん、説教は米
村牧師。第一ヨハネ二の一、二か
ら、罪を犯さないで生きるのは私
たちの理想だが、現実、罪を犯

さざるを得ない弱さを私たちは持
っている。そんな私たちのために
偉大な弁護士がおられる。それが
イエス様だと語りました。

先週の出席

○礼拝参加者は、第一礼拝が三
九名、第二が三四名、合計七三名
(男二三、女五〇)。それに子ども
が五名、合わせて七八名でした。

元旦礼拝の報告

久しぶりの元旦礼拝が午後二時
から行なわれました。

合志文利さんの司会で始まり、
坂田飛鳥さんの特別賛美、興梠夫
妻の次男奏太君の献児式が行なわ
れました。説教は、以下の、今年
のローズンゲンの言葉、

「すべてのことを見分けて、ほん
とうに良いものを堅く守りなさい」
(第一テサロニケ五の二二)
から、米村牧師が話しました。
堅く守りなさい。

何を？
ほんとうに良いものを。

どのようにして？
すべてのことを見分けて。

それぞれ含蓄のある言葉です。
ぜひ、今年は、ほんとうに良いも
のを見いだして、堅くそれを守り
たいものだと思います。

礼拝後は、集合写真撮影、ぜん
ざいを食べながらの挨拶、交わり
の時となりました。参加者は、子
どもを含め、約七〇名でした。帰
省中の方がたとの久しぶりの再会
も感謝でした。

牧師身辺

今年、ぼくは八〇歳になります。
自分では、それほどの高齢者であ
ると思つてはいないのですが、町
の民生委員の方の訪問をしばしば
受けるようになり、その都度、

「お変わりありませんか」

と聞かれると、その言葉に戸惑う
反面、ぼくたちはやはり、一般社
会から見れば、心配していただか
なければならぬ、りっぱな高齢
者なのに違いありません。

それでも五〇年以上も、こうし
て同じ仕事が続けられていること

は感謝です。今年も、主のゆるし
があるかぎり、説教をし、週報を
発行し、次の本も書けたらいいな
と思つています。

ある友人の年賀状に、
「英二さんは、終生、牧師なので
しようね」

とありました。あるいは、そう
いう道もあるのかもしれませんが、
ぼくのできない分野を積極的に切
り開いて、福音宣教のために労し
ていただきたいと願っています。

肉体的には大体において健康で
す。妻は大腸癌手術後の、いくら
かの後遺症があり、ぼくは一〇年
前から、前立腺肥大の病気を抱え
ています。先日は、PSA値がや
や高く、がんの疑いもあるのでM
RI検査を受けるように言われま
したが、結果は良好で、一安心で
す。ただ聴力が落ちつつあり、マ
スク着用の場合、相手の方の言葉
が聞きづらく、申し訳なく思うこ
とがあります。そのことでは、み
なさんには忍耐していただかなけ
ればなりません、よろしくお願
いいたします。